

わおん 通信

2016
春号
vol.20

特集

COP21で何が決まったか

パリ協定等の主要ポイント



CONTENTS

P2 - P3

県内地域の取り組み

里山の自然素材でクラフト体験
平成27年度 推進員総会
ご当地エネルギーで地域自治

第6回 推進員マっちゃんの
あ~したら、こ~なった!

P4 - P5

COP21で何が決まったか パリ協定等の主要ポイント

P6 県情報

未来のために、いま選ぼう。
県センター情報
『節電所』大賞決定

P7

推進員さん訪問記⑩
なるほど ザ・ワード

P8

INFORMATION



里山の自然素材で クラフト体験

2015年11月22日
「第27回 かつらぎ町産業まつり」

【かつらぎ公園グランド】

かつらぎ町の合併10周年の記念イベントとして開催された産業まつりに、伊都・橋本

地球温暖化対策協議会が参加し、地球温暖化防止のパネル展示や里山の自然PR、クラフト教室、出張省エネ診断等を実施しました。

クラフト教室では、クリスマス直前の開催にともない、大きな松ぼっくりにビーズや南天、リース等で飾りづけを行い、思い思いのクリスマスツリー作りで大盛況でした。子どもたちは、自然に親しみながら創意工夫できるよい機会となりました。また、簡易診断ソフトを使った家庭の省

エネ診断も実施し、省エネ対策やCO₂削減ヒントを提案いたしました。今後も市民が多く集まるイベントに出展し、地球温暖化防止に向けた啓発活動が続けていきたいと思えます。

(推進員

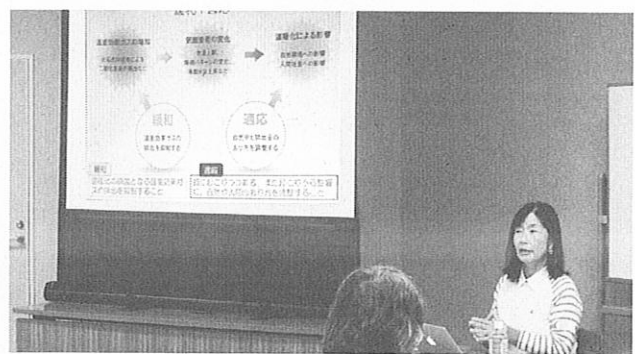
黒井成男)

平成27年度 推進員総会

2015年12月5日
「気候変動の適応講演&ワークショップ」

【和歌山県民文化会館】

12月5日に、和歌山市にて平成27年度の推進員総会を実施しました。今回は、龍谷大学の増田容子先生をお迎えし、温暖化防止に関する最新線のお話を伺いました。次に参加した推進員全員で「仲間が増える普及啓発方法」をテーマにしたワークショップを行いました。最初は不評だったのですが、終わってみると以下のように手応えのある話になりました。



①地球温暖化防止活動推進員の愛称を決める、②人に説明する際は、相手が普段使っている言葉や媒体を使う。③自身で確認した温暖化の影響について情報発信する。新聞の転載には、説得力があんまり無いと認識。④イベントは仲間づくり効果は大きくないから、終わった後に何かの実感や達成感の持てる企画とする。⑤大勢に声がけするようにならな乱暴な呼びかけでは、仲間

ない」ので、一人一人を丁寧に誘う、そんな地道な一本釣りが、結局は仲間を増やす近道となる事を共有した会となりました。

(愛称募集します。詳しくは8ページ)



ご当地エネルギーで地域自治

2015年12月19日

[県民交流プラザ・和歌山ビッグ愛]



「ドイツ×わかやま・ご当地エネルギーの取り組みからみてきたこと」というタイトルで推進員を中心とした自然エネルギー学習会が行われました。ドイツで5年間を過ごされ、帰国後も実践的な市民共同発電に取り組まれている市民エネルギーとつとり代表の手塚智子さんのお話を聞きました。迎え撃つ和歌山からは、地域貢献型市民協働発電を実施しておいで南紀自



然エネルギーの安原克彦さん、市民共同出資型の発電事業「てんとつ虫プロジェクト」を実施中の紀ノ川農協の宇田篤弘組合長をお迎えし、資源国がクシャミをしても平気な地域自立を目指す際の課題を整理しました。国策としてのエネルギー施策のことは分からないけれど、地域にある資源、人材を上手に使うお金、地域外流出を防ぐ。地域内でお金を回し、環境にも良い。自分達のことは自分達で決められる強い地域づくりをご当地エネルギーは十分実現できるんだということを確認しました。

第6回 推進員
マツちゃんの

あ～したら、こ～なった!

「町の「？」に目を向けて」

昨年4月に1千坪以上の敷地にリニューアルオープンした岩出市の自動車販売店、素晴らしいデザインで中古車売り場、修理工場も新設。が、夏ごろの雨の日に施設の全照明が点灯している、看板を含めると40個以上の照明になりそう。他の店舗ではどこも照明は点いていないので、おかしいなと思いましたがLEDでもあるし「まあいいか・・・」。

がその後も、何度か曇りの日や雨の日には昼間から点灯しているのを見かける次第で、12月になって店長にどうして点けているのか?を聞いてみました。「いや、点いてしまうから!」との回答です。そこで昼間から点いていた水銀灯の例を話して、センサーを調べて貰うことになりました。

そして今年1月の曇天の日、点灯していないのを発見して店長に確認すると「直しました!」とのこと。私は「有り難うございました」とお礼をいった次第です。

また数年前にはこんなこともありました。夜中に目覚めると県立高校のグラウンドがやけに明るいです。そんな夜が数日続き、現場まで行ってみると「4本の大きな水銀灯が、誰もいないサッカーグラウンドを煌々と照らしている!」。翌日、担当課に連絡して調べて貰いました。結果は、タイマーの操作ミスで夜中に点灯していたのです。

このコーナーでは推進員の方々のCO₂削減活動を募集しています。ぜひ、「私はこんな活動をしました」という声をお寄せください。

が決まったか

主要ポイント

（パリ協定第21回締約国会議）は、パリ協定とCOP21の採択をめぐる深刻な対立を乗り越えて成立した、京都議定書以来の拍手と感動に包まれたといいます。



〈写真提供・地球環境戦略研究機関 田村堅太郎氏〉

3、先進国と途上国の「差異」の取り扱い

これまで地球温暖化をめぐる国際交渉で、一貫して最も鋭い対立点となってきたのは先進国と途上国との責任や役割の「差異」を、どのように取り扱うかでした。現在の温暖化の主要な原因は先進国が過去に排出してきた温室効果ガスにありますが、いまや排出量の過半を占める途上国の行動なしに地球温暖化は防げませんし、途上国同士でも発展段階に大きな差があるからです。

そこでパリ協定は、先進国と途上国の二分論を回避してすべての国に等しく行動を求め一方、先進国には「国別絶対排出量目標」を達成する率先した行動を、また途上国には「削減努力の強化」に加え発展段階に応じ徐々に先進国並みに排出削減行動

を引き上げてゆくことを促すことで「差異」に配慮。また、資金供与の問題でも基本的には先進国が義務を負いつつ、途上国でもその準備がある国には積極的な協力を求めるなど、きめ細かにかつ動的に「差異」を入れ込むことで双方の合意にこぎつけています。

削減目標

提出された約束草案より抜粋

削減目標	
GDP当たりのCO ₂ 排出を 60-65% 削減	2005年比
40% 削減	1990年比
GDP当たりのCO ₂ 排出を 33-35% 削減	2005年比
26% 削減 <small>※2005年比では25.4%削減</small>	2013年比
70-75% に抑制	1990年比
26-28% 削減	2005年比

資料提供：JCCCA
平成27年10月1日現在

（気候変動防止活動推進センター）

4、COP21 の評価と日本の課題

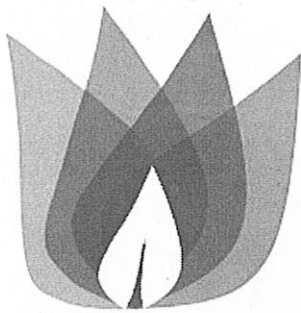
京都議定書に続く地球温暖化対策の枠組みは本来、2009年にコペンハーゲンで開かれたCOP15で合意する予定でしたが失敗、その教訓を活かし6年の周到な準備を積み上げてようやく今回のCOP21で世界の合意に至ったのでした。

採択されたパリ協定は、気候変動を防ぐために必要な行動を法的拘束力ある義務として世界に課すことこそできませんでしたが、なによりも世界の全ての国がこの枠組みに参加することで合意し、さし迫る地球規模の破局に対し人類があきらめず、克服するためのシステムを作り出した点で歴史的な意義があると評価できます。

これは、現に地球規模で激化する異常気象を前に、米中を含め世界のリーダーが「もう後がない」という認識で一致していたこと、EU はじめ多くの国々と経済界が前向きな合意形成に向け積極的なイニシアティブを発揮したこと、そして議長国フランスの高い外交力の賜物です。

パリ協定を受け日本には、京都議定書の義務達成を目的とした「地球温暖化対策の推進に関する法律」を改定するなど国内法を整備することが必要です。また協定で合意した長中期の目標に沿うとともに世界の趨勢に後れを取ることがないように、早期に脱炭素社会を建設してゆくための社会経済戦略の策定を急がなくてはなりません。

私たち市民にも、脱炭素社会を展望した地域社会づくりへの関与やライフスタイルの転換など、これまで取り組んできた地球温暖化防止活動を一層強化することが求められるでしょう。歴史的なパリ協定は、そうした草の根の活動が人類の未来を開くことにつながることを示す希望の光ともいえそうです。



TOUS ENSEMBLE
POUR LE CLIMAT

cop21.gouv.fr #COP21

特集

COP21で何

パリ協定等の主

昨年12月12日、フランスのパリで開催されたCOP21（国連気候変動枠組条約決定を満場一致で採択し閉幕しました。地球規模での気候変動が広がるなか国定書（1997年）以来の法的拘束力ある歴史的な国際合意であり、会場は鳴り響く歓声ではいったい何が決まったのか、そのポイントを紹介します。

1、温室効果ガス排出削減の目標

パリ協定は地球温暖化対策で世界がめざす目標を次の三つにまとめました。

- ①長期目標＝地球の平均気温上昇を産業革命前の水準から2℃よりはるかに低い水準に抑え、1.5℃に抑制する努力をする。
- ②中期目標＝そのために、可能な限り早期に世界の排出量を頭打ちにし、その後速やかに減少させる。
- ③中期目標＝今世紀下半期に温室効果ガスの人為的な排出と人為的な吸収を均衡させる。






長期目標として、国際条約に「2℃未満」と具体的な数値で温度目標が書き込まれたのは初めてです。また、海面上昇で消滅の危機に直面する小島しょ国の切実な訴えを受け、1.5℃目標にも言及したことは画期的です。これを受けCOP21決定は世界の気象学者らで作るIPCC（気候変動に関する政府間パネル）に対し、1.5℃上昇に食い止める温室効果ガス排出経路等についての特別報告を、2018年に提出するよう招請しました。

この長期目標を達成するための②の中期目標で「早期に温室効果ガス排出を増から減に逆転」したうえ、その先③の中期目標で「排出中立化」を明記しました。これは、森林吸収やCO₂を回収貯留する技術（CCS）など人為的な吸収も活用しつつ、2050年以降は差し引きでの人為的な排出をゼロさらにはマイナスにすることを意味します。この目標は世界が早期に化石燃料依存の社会から卒業すべきことを意味しており、石油石炭文明に代わる新しい文明への転換宣言とも評すべきものです。

2、各国目標と定期的な見直し

目標を達成するためには、各国の国別約束（排出削減目標や行動）で目標が裏付けられなければなりません。先進国だけでなく途上国もこぞって、この国別約束をCOP21に提出したのも画期的なできごとでした。しかし、提出された国別約束は全体として2℃未満の長期目標を達成するには大きく不足しており、また京都議定書のような罰則付きの義務化は抵抗が強くパリ協定には盛り込めず、自主目標として条約事務局が登録簿を作成するにとどまりました。

しかしその代わりに、各国は現在の国別約束を見直し引き上げたものを5年ごとに提出して長期目標に比べ十分かの評価を受けるとともに、それぞれの段階の約束の達成を保障する国内措置をとることがパリ協定で義務付けられました。こうして、自主的でありながら長期目標の達成に向けて各国の取り組みを後退させることなく継続して見直し、強化し続ける仕組みが確立されたのです。最初の評価・見直しは2018年から始められることも決まっています。

国名	
 中国	2030年
 EU	2030年
 インド	2030年
 日本	2030年
 ロシア	2030年
 アメリカ	2025年

〈出典・全国地球温暖化対策推進委員会〉



ハイブリッド、電気自動車、
燃料電池車…。
エコな選択肢で悩める
時代が来ました。



残さず食べる。
食べ物を大切にできる気持ちよけ
CO₂削減に繋がります。



地域の環境ボランティア等に
参加する。
その影響は、地球規模です。



未来のために、いま選ぼう。

消灯、温度設定、節水など普段の行動や、クルマ、家電、住宅などの身の回りのものを選びとき、
これからの目線で選んでみませんか？
日常の選択の積み重ねが、大きな変化につながります。
ますます重要になってくる、ひとりひとりの選び方。
この矢印が、地球温暖化対策につながる賢い選択のヒントです。

COOL CHOICE 決め



国では、2030年の温室効果ガスの排出量を2013年度比で26%削減することを目標とし、その達成のための省エネ低炭素型の「製品」「サービス」「行動」など積極的に選択することを呼びかける地球温暖化防止に関する国民運動「COOL CHOICE (クールチョイス)」を展開しています。

例えば、省エネで長寿命なLED照明に切り替える

自動車を使わず、たまには自転車を出かけてみる

買い物には、マイバッグを持っていく など

未来のために、一人ひとりが意識や行動を変えていき、環境にやさしい賢い「選択」を心がけましょう。
県でも、様々な機会を通して、CO₂削減アクションを呼びかけていきます。

県センター情報

『節電所』大賞決定

わかやま「節電所」建設プロジェクト2015
報告・表彰式

2016年2月13日

【和歌山市男女共生推進センター】



今年で3年目となります、プロジェクトの報告 & 表彰式が開催されました。会場にはノミネートされた方々をはじめ、県の地球温暖化防止活動推進員、関係者など総勢30名以上が来場。プロジェクト事務局より挨拶・報告に続き、和歌山大学システム工学部・吉田教授より「非常に暑かった夏、知恵と工夫で乗り切った成果が結果になりました」とコメント。そして表彰者の発表です。今回は大賞・準大賞・部門賞など4部門・25名の受賞者となりました。ユニークなアイデアや取り入れてみたい工夫が今年もたくさんあり、会場からは関心の声があがる場面も。会場を訪れた7名の受賞者が、表彰状を受け取り、取り組みの感想を述べていました。

推進員^{ひょっこり}さん〇〇訪問記¹⁶

和歌山市 友沢 正幸 さん



和歌山市にお住まいの友沢正幸さんは推進員2期生で、大阪生まれの海南市・和歌山市育ち。和歌山工業高校を卒業後は愛知県のトヨタ自動車に就職し、エンジン系の試作・実験等に従事していましたが、家庭の事情で1987年に帰郷して食品関連メーカーに再就職、機械設計を担当していました。そして1996年に独立、現在は(有)三友技研工業の社長さんとして食品関連の機械技術や設計、管理、コンサルティング等に従事しています。

推進員への応募動機は、その頃に騒がれていたダイオキシンや和歌山市北部に建設予定の産廃場問題で、環境問題に関心を持ち始めたからといいます。講義を受ける前は温暖化には疑問を持っていたのですが、受講中にその状況や原因を知るにつけて温暖化を確信、自らの行動でもマイバッグ利用や仕事でもなるべく電車を使うようになったといいます。そして会社では「わかやまエコオフィス事業所」を宣言、サマータイム導入やエアコンの適正使用等で平成20年度の「わかやま環境賞」を受賞しました。また、推進員養成講座のスタッフとして活躍、発電自転車「和っ人君」の名付け親でもあります。しかし、子供が幼稚園に入る頃から自由時間が無くなり、推進員活動からも徐々に遠ざかってきたとのこと。

友沢さんは「仕事や子供のPTA活動、自治会活動等で忙しく、イベント活動に参加する時間はほとんど取れない状態で恐縮している」といいますが、現在も事業所での午前中のエアコン使用禁止(夏期)や子供と一緒にの朝夕の打ち水(風呂の残り湯使用)、ゴーヤによるグリーンカーテン栽培と指導、ライトダウンキャンペーンへの参加、環境家計簿カレンダーの配布、保冷材を使った首巻き利用等、マイペースで「できることから続けよう!」を実践しています。

自由時間がないとはいえ、「温暖化を防ぎたい」そして「子供たちになるべく良い環境を残したい」との思いとその誠実さが感じられる友沢社長さんでした。



なるほど サ・ワード

STOP温暖化・焦点の言葉 16

*地球温暖化をめぐる報道などで、いま焦点となっている言葉を簡単に解説します

地球温暖化とエルニーニョ

エルニーニョ現象は、太平洋の赤道域を東から西へ吹く貿易風が弱まることなどをきっかけに、日付変更線付近から南米のペルー沿岸にかけての広い海域で海面水温が平年に比べて高くなり1年程度続く現象で、日本を含め世界中で異常な天候を引き起こすことが知られています。反対に、同じ海域の水温が下がる現象をラニーニャ現象と呼びやはり異常気象の原因となりますが、この二つの現象はシーソーのように交代しながら数年ごとに発生しています。

地球規模での海流と大気循環の変動が原因ですから、地球温暖化とも関係がありそうですが、これまでのところ地球温暖化がエルニーニョ現象などに及ぼす影響について定説はありません。ただ、造礁サンゴの化石分析により今から約460万年前～約300万年前、現在より地球平均気温が2～3度高かった時代に、エルニーニョ現象がより頻繁かつ大規模に発生していた証拠が見つかったとの報告もあり、同現象が地球温暖化による異常気象をさらに激化させる可能性があることを、警戒しておく必要はあるかもしれません。

イベント案内

●橋本市花まつり

(協議会のブース出展します)

日時 2016年 3月26日(土) 10:00~14:30

場所 橋本市民病院前
菜の花畑特設会場

■ 申込先: 伊都・橋本地球温暖化対策協議会 FAX: 0736-22-8388 e-mail kurois603@yahoo.co.jp

●里山カフェ in 柱本

(里山の山菜を採ってその場でクッキング)

日時 2016年 4月10日(日) 10:00~14:00

場所 橋本市柱本芋谷フィールド
(集合は柱本集会 所前)

■ 参加費: 500円

●県内の「カーボン・オフセット付き商品」が勢揃い

「町で使い、森へ還す」 “毎日の買い物からはじめる、森林を守る活動へ”

このマークのついた商品やサービスを購入すると、販売価格の一部が和歌山県内の森林保全に活用される「寄付つき商品」がスタートしました。

右記 WEB サイトでは、この取り組みの紹介や、活動に参加された事業所の紹介を行っています。

◆詳しい問い合わせ先

木の国エコリレー推進協議会 事務局
和歌山市毛見996-2 073-499-4734

(わかやま環境ネットワーク内)

◆詳しくは <http://kinoeco.net>

※スマートフォン対応

または **木の国クレジット** で検索



◆カーボン・オフセットとは

日常生活や経済活動において避けることができない CO₂ 等の温室効果ガスの排出について、まずできるだけ排出量が減るよう削減努力を行い、どうしても排出される温室効果ガスについて、排出量に見合った温室効果ガスの削減活動に投資すること等により、排出される温室効果ガスを埋め合わせるという考え方です。イギリスを始めとした欧州、米国、豪州等での取組が活発であり、我が国でも民間での取組が拡がりつつあります。【環境省 web サイトより抜粋】

●わかやま推進員サイト 運用中!

イベント参加や学習会などのご案内、また情報交流の掲示板として推進員のみなさまの活動の「見える化」をすすめるサイトとして運用中です。ぜひアクセスしてください!

<http://wenet.info/sui/> または

検索 **わかやま 節電** で検索

■ 問い合わせ先: 和歌山県センターまで

●和歌山の「推進員」ネーミング募集

先日、12月5日に行いました推進員総会。これからの活動を活性化するためのワークショップで「地球温暖化防止活動推進員をもっと呼びやすいネーミングにしては?」という意見があがりました。ただいま、親しみやすい名前を募集中です。3月末まで。

これはと思うご意見をお寄せください。

■ 問い合わせ先: 和歌山県センターまで

県センター通信

少しずつ暖かい日が増え、さまざまな行事やイベントの機会が増えてきました。私たちも、各種イベントや出前講座の機会を増やし、推進員活動がより周知され活性化されるよう働きかけてまいります。県内各地の地域課題はさまざまですが、自治体や民間団体、企業との連携を通じて『温暖化防止』への関心、賛同者を増やす取り組みに力を注いでいきたいと思っております。

県センター事務局は来年度より、これまでに増して少人数体制での運営となります。変わらぬ取り組みを目指していきたく思いますが、推進員のみなさまのご参加、お手伝いが欠かせません。どうぞよろしく願い致します。

